✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧

## ✧　気候講演会「異常気象の実態に迫る」開催

気象庁、日本気象協会、気象業務支援センターが共催する平成23年度気候講演会が1月13日(金)に気象庁講堂で満員盛況の中で開催されました。会場は事前の登録で満員（200名）となり、登録を打ち切るほど聴講希望の方が多く、何とか聞けないかとの申し込みが事務局にあるほどでした。

今回のテーマは「異常気象の実態に迫る」として、3つの講演が用意されました。①『「異常気象」の現場から』と題して、読売新聞東京本社科学部の佐藤記者が海外における異常気象の実態を現場取材の視点から講演され、臨場感あふれる語りで聴衆を魅了しました。ブラジル、タイ、アフリカ、アメリカ、ヒマラヤ、シベリアと世界をまたいでの現況報告は、スケールの大きい講演となりました。②『異常気象の発生要因』と題して、気象庁気候情報課の前田予報官は気象庁が捉えた異常気象の原因である大気の流れの異常をジェスチャーを交えて分かりやすく解説し、また数値予報モデルによる将来的な予測の利用状況と限界について解説頂きました。最後に、③『日本の顕著な気象現象の将来予測』と題して、異常気象の将来予測について気象研究所環境・応用気象研究部の栗原第三研究室長が、気象研究所やその他の先進的な研究が示す将来予測の現状について解説しました。特に、将来問題となる顕著現象の解明には解像度の高いモデルが必要となり、地形効果などもきちんととりいれて初めて予測が可能となることを述べられた後に、モデルによる降水、気温、台風に関する予測結果を説明頂きました。「異常気象の実態に迫る」と題して行われた以上の3つの講演により大変分かりやすく異常気象の状況と予測を解説して頂き、異常気象が改めて身近な問題として再認識することができました。

講演に聞き入る参加者

参加者からの質問に答える栗原第三研究室長

なお、②と③の講演の内容は、気象庁ホームページに掲載されています。図表を使っての解説文です。ぜひ、以下のアドレスからご覧ください。

http://www.data.kishou.go.jp/climate/cpdinfo/climate_lecture/index.html